



令和 6 年 4 月 吉日

神楽まちづくり推進協議会会長 様

国立大学法人 旭川医科大学
医学部看護学科
学科長 升田 由美子

旭川医科大学医学部看護学科
「地域包括ケア論」「地域包括ケア実習」に関する協力依頼

謹啓

麗春の候、貴職におかれましてはますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は本学の教育・研究に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

看護学科では平成 31 年度より新しいカリキュラム（2019 カリキュラム）による教育を開始し、今年で 6 年目を迎えました。このカリキュラムでは住み慣れた地域でのより良い暮らしと医療・ケア（地域包括ケア）を担う人材育成をねらいとした新科目「地域包括ケア論」と「地域包括ケア実習」を開講しております。これは平成 29 年に文部科学省より公表された「看護学教育モデル・コア・カリキュラム」（別紙）においても要請されている内容です。

この科目では、地域包括ケアの視点に立ち、地域に暮らす個人・家族・集団を対象とした看護を主体的に実践する能力を涵養することを目的として地域に貢献できる看護職の教育を行っております。

本教育の取り組みに平成 31 年度より神楽地区の住民の皆さまにこの科目の教育にご協力いただくことにより、住み慣れた地域に暮らし続けるために必要なことについて、学生が実際に学ぶ機会となっております。未熟な学生ではありますが、4 年間の講義・実習を通して神楽地区の皆さまの健康生活の一助となることができればと考えています。

つきましては、「地域包括ケア実習」として昨年度に引き続き下記のとおり健康セミナーの開催を予定しておりますので、ご理解の上ご協力頂きますようお願いいたします。実施にあたっては感染症拡大状況にあわせて、感染対策を取りながら行いたいと考えております。なお、当日のスムーズな運営にあたり、事前の具体的な打ち合わせ、健康セミナー参加者の募集、当日の貴協議会委員 1 名に受付等のご協力を頂けますと幸甚です。

また学生の学びの機会として地域活動への参加につきましても、ご協力ありがとうございます。上記実習以外にも、学生が神楽地区の地域活動に参加することを通して、より具体的に地域包括ケアを学ばせたいと存じます。引き続きよろしくお願い申し上げます。

謹白

記

- [日時] 令和6年7月17日(水)14:00～16:00
- [会場] 神楽公民館 木楽輪
- [内容] 「地域包括ケア実習」健康セミナー“げんき種”
- [対象] 先着12名
- ・神楽・神楽岡地域にお住まいの50歳以上の方
 - ・ご自身の健康に関心のある方
- [費用] 参加無料
- [その他] 以下のご協力をお願いいたします
- ・事務局（神楽支所）と事前の具体的な打ち合わせ
 - ・健康セミナー参加者の募集
 - ・健康セミナー受付業務（13:30-15:30）1名のご協力（謝金をお支払いいたします）

以上

連絡先

旭川医科大学医学部看護学講座 地域包括ケアチーム
地域包括ケア実習 神楽地区担当
神成 陽子

看護学教育モデル・コア・カリキュラムの考え方(文部科学省)

- 1 モデル・コア・カリキュラム策定の背景(略)
- 2 モデル・コア・カリキュラム策定の趣旨と大学教育における活用等(略)
- 3 国民への周知や協力の依頼

臨地実習に当たっては、様々な場面での看護の対象として関わる国民の理解が必要不可欠である。各大学においては、実習協力施設との調整の下、実習の受入れの同意を適切に取得するとともに、臨地実習への国民の協力を広く請うために、看護学教育の必要性和重要性について周知を図ることが望ましい。(中略)

- 1) 医療・看護では、患者自身や家族の理解と協力が不可欠であること
- 2) 看護学教育においても、保健・医療・福祉の様々な場面での実習を通じて、学生が患者や要介護者等の看護の対象者に直接接することが必須であり、これらの人々の協力が不可欠であること
- 3) 実習への協力を通じて看護学生と一緒に育ててほしいこと

- 4) 看護学教育への協力が、将来的により良い看護や看護学の進歩といった形で広く国民に還元できるものであること

- 4 学生及び各関係者への要望

- 看護学生に求めたいこと(略)
- 看護学教育に携わる各関係者にお願いしたいこと

看護学教育とりわけ臨地実習は、今後、今まで以上に地域医療(地域完結・循環型医療)や地域包括ケアシステムを意識し、様々な領域に関わるものとなるため、地域の関係機関等には在宅医療・訪問看護、職域の保健活動及び教育等を含め大学の実習に協力をお願いしたい。(以下略)